

2 人口減少の負のスパイラルの克服に向けた高知県の取り組み



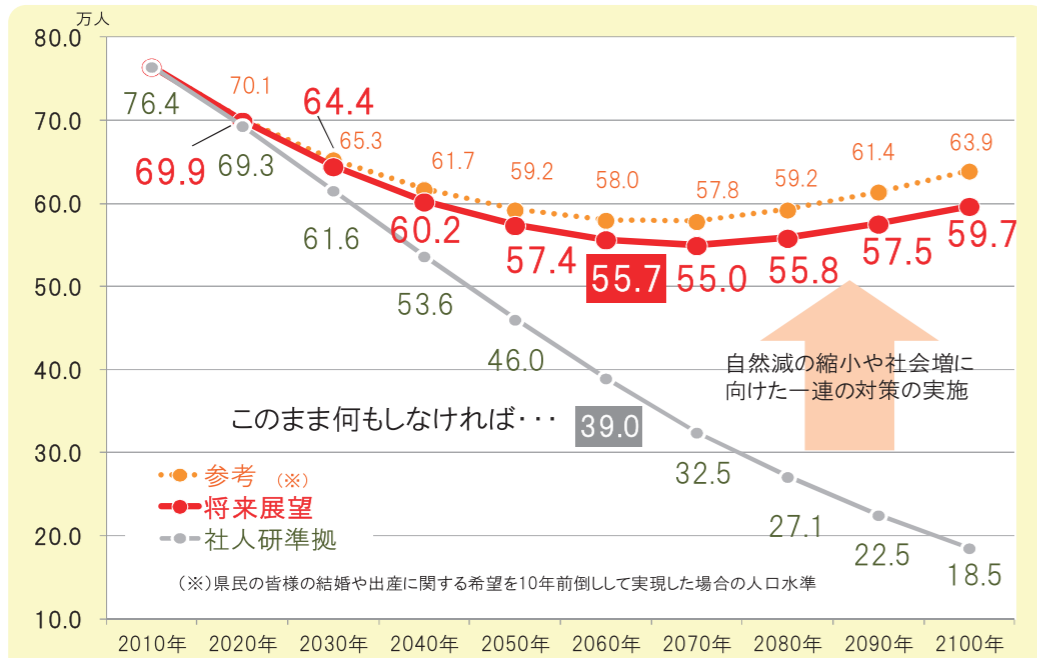
人口減少の負のスパイラルを克服することが県政における最大の課題です。この克服に向け、「高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」に、2060年の本県の人口を約55万7千人に踏みとどまらせ、将来的な人口の若返りと人口増への転換を目指すという『高知県人口の将来展望』を掲げて取り組みを全力で進めています。

《将来展望》

2060年：約55.7万人

※国の推計の39万人の約140%に相当
[現状(2015年):72.8万人]

○人口構造が若返る
年少人口割合は2020年から、
生産年齢人口割合は2045年から
上昇に転じる



若者の定着・増加

《将来展望》2040年：1,000人の社会増
[現状(2018年度)：2,547人の社会減]

出生率の向上

《将来展望》2040年:2.07、2050年:2.27
[現状(2018年):1.48]

出典：平成30年人口動態統計月報年計(概数)

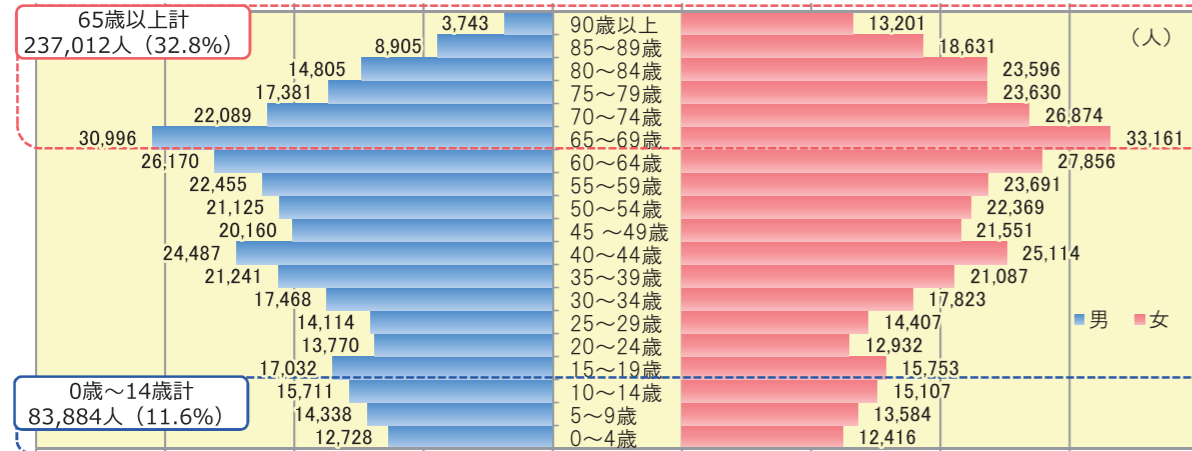
A 地産外商により
雇用を創出する

B 若者の県外流出の防止
県外からの移住者の増加

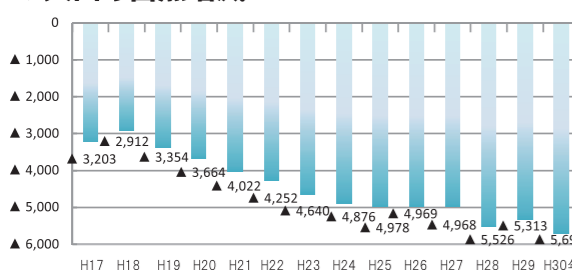
D 希望をかなえる
「結婚」「妊娠・出産」「子育て」

C 特に、出生率が高い傾向にある
中山間地域の若者の増加
[出生率]「人口動態保健所・市区町村別統計(平成20年~24年)」
高知市：1.35
中山間地域：四万十町1.68、土佐町1.61
津野町1.60、芸西村1.56

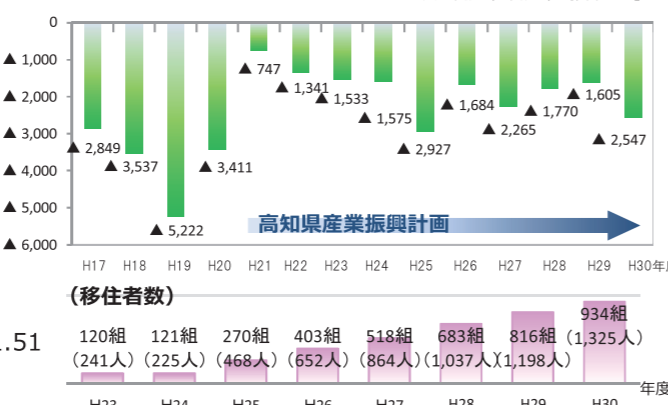
▽高知県の人口ピラミッド(2015年(平成27年)) 総人口728,276人



▽人口の自然増減



▽人口の社会増減



(合計特殊出生率)
1955 (S30) 2.27→1975 (S50) 1.91→1995 (H7) 1.51
→2009 (H21) 1.29→2019 (H30) 1.48

高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略<平成31年度版>の構造

基本 目標1 地産外商により
安定した雇用を創出する

A

- 成長に向けた「メインエンジン」をさらに強化する
- 成長の「壁」を乗り越える
- 成長を支える取り組みを強化する

数値目標

- 雇用の創出 H28~R元：4,000人
- 各産業分野における産出額等の増加

[これまでの成果]
雇用保険被保険者数 | H20:178千人→H30:197千人(+19千人)

基本目標3 若い世代の「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の希望をかなえる、女性の活躍の場を拡大する

D

- ライフステージの各段階に応じた取り組みのさらなる推進
- 官民協働による少子化対策を県民運動として展開
- 女性の活躍の場の拡大

数値目標

- 令和元年の合計特殊出生率 1.61

[これまでの成果] H20:1.36→H30:1.48

基本 目標2 新しい人の流れをつくる

B

- 県内高校生等の県内就職の促進
- 移住の促進 ● 人材の誘致

数値目標

- 令和元年度に人口の社会増減をゼロにする

[これまでの成果]
社会増減 | H16~20:▲3,396人/年、H21~25:▲1,625人/年
H26~30:▲1,974人/年
移住者数 | H23:120組(241人)→H30:934組(1,325人)

基本目標4 コンパクトな中心部と小さな拠点との連携により人々の暮らしを守る

C

- 中山間地域での小さな拠点(集落活動センター、あったかふれあいセンター)の整備促進
- コンパクトな中心部と小さな拠点を衛星としたネットワークの形成

数値目標

- 令和元年度末の集落活動センターの開設数 80ヵ所 など

[これまでの成果] R元.5月現在:29市町村52ヵ所